

10年後に安心して生活できる町をつくるために

7月23日(日)に「たてしな住民の暮らし懇話会」が開催されました。町内外から50名ほどの方にお集まりいただきました。

まず、はじめに「たてしな“ずく”りの会—立科町暮らしづくりの会—生活支援コーディネーター」の紹介や活動報告・今後について説明がありました。

つづいて、地区で行われている活動の報告ということで、「西塩沢みずほふれあいネットワークの会の活動」について、櫻井貞子さんより報告がありました。



また、平成29年6月から健康サポーターが中心となり行っている通いの場「たてしな元気塾」の紹介とその中で行われているタオル体操も行われました。

座談会では、長野県生活支援コーディネーター養成講師であり、“ずく”りの会アドバイザーの浦野千絵さんの進行で、様々な意見や感想が出されました。

「住民一人一人の活動が大事」「“食”をテーマにすると人が集まり継続する」「タオル体操を地区でもやりたい」「移住希望者の交流会を定期的にするさと交流館で行っているが、友人がほしい・サークルを知りたいなどの希望があるので、住民の得意なことやサークルなどの紹介をお願いしたい」「小さい町では子どもから高齢者まで一体となることができる体制があるとよいのでは」等という意見が出ました。



立科町の魅力について「自然環境」「水・空気がおいしい」「夏涼しく、冬寒い」「自然災害が少ない」「りんごがおいしい」「野菜がおいしい」「人の温かさ」「不便じゃない」「えいっこ精神が素晴らしい」「子育てにも年寄りにもやさしい」という意見も出ていました。

地域の支え合い活動について考えていくには、若い世代からお年寄りまで年代を超えた住民の参加が必要です。次回は平成30年2月頃、懇話会を開催する予定ですので、住民の皆さん、ぜひご参加ください。